



## 当院の紹介

当院は、2007年に回復期のリハビリテーション専門病院として開院しました。2023年9月に増床し、現在は回復期リハビリテーション病棟 168床、地域包括ケア病棟 42床、緩和ケア病棟 20床を有しています。失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害の患者様に対して、在宅復帰に向けてスタッフ一同、サポートを行っています。嚥下障害の患者様に対しては、嚥下造影検査（VF）や嚥下内視鏡検査（VE）、電気治療機器も積極的に行っています。また、地域包括ケア病棟では、急性期病院からの転院、自宅や施設からの入院に対応していて、当院嚥下外来とも連携しています。

来年度に向けて、3名の言語聴覚士（新卒・既卒）を募集しています。土日も含めて、随時、施設見学も行っています。また、**ZOOM**を利用したリモートでの施設見学も行っていますので、回復期、または地域包括ケアや訪問リハビリに興味がある方はぜひご連絡ください。

連絡先：[reha@syr-h.com](mailto:reha@syr-h.com)（リハビリ科・君島宛）

## 当院の紹介（写真）

---



リハビリテーション室



言語療法室



新棟・リハビリテスペース



新棟・言語療法室

## スタッフ紹介

---

1年目～24年目まで、計**17名**のスタッフが在籍しています。出身校は下記の通りで、関東以外のスタッフも在籍しています（所属人数順）。

- 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
- 西武学園医学技術専門学校
- 北里大学
- 日本福祉教育専門学校
- 新潟医療福祉大学
- 東京医薬専門学校
- 臨床福祉専門学校
- 仙台医療福祉専門学校
- 神戸医療福祉専門学校
- 愛知淑徳大学
- 名古屋文化学園医療福祉専門学校

## 卒業生から一言

---

### 西武学園医学技術専門学校卒 2021年入職



本病院の特徴として、「1症例2担当制」があります。2人の担当で連携を取り、患者様を手厚くサポートする姿勢が、入職の決め手になりました。また、先輩方に訓練の指導や、講習会、勉強会をしていただき、日々研鑽を重ねています。そして、1年目は「新人プログラム」といった形で定期的に講習を行い、他部門の分野についても学んでいます。

### 北里大学卒 2021年入職



患者様ひとりひとりに寄り添ったリハビリがしたいと思い、回復期病院への就職を決めました。当院は新人プログラムも充実しており、先輩方から臨床に必要な知識を丁寧に教わることができます。また、緑の多い庭園や広さのあるリハビリスペースなど、患者様がリハビリしやすい環境が整っていると思います。

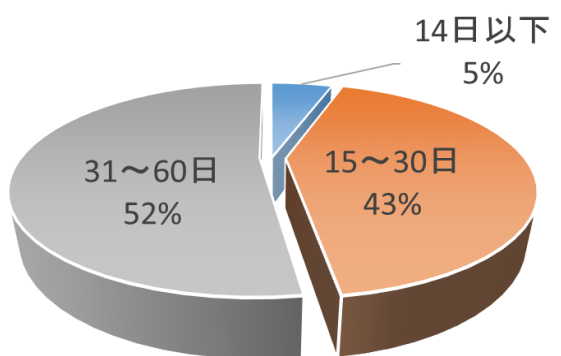
### 日本福祉教育専門学校卒 2021年入職



学生の頃、感染症の影響で臨床実習に行くことができませんでした。しかし、この病院に入職してから、先輩方が勉強会を開いてくださったり、検査の練習を一緒に行ってくださいたりと、沢山サポートしていただけているので、安心して仕事をすることができています。

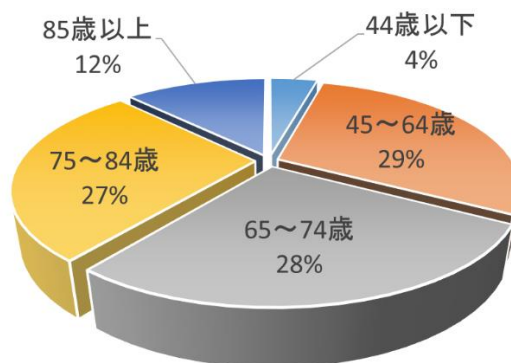
## S T介入患者様の特徴

1年間にS Tで介入した患者様（172名）の特徴をまとめたものです。



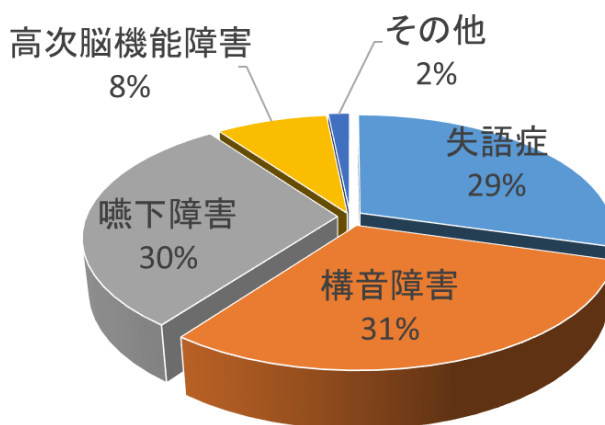
平均 32.6 日

発症から入院までの日数



平均 69.4 才

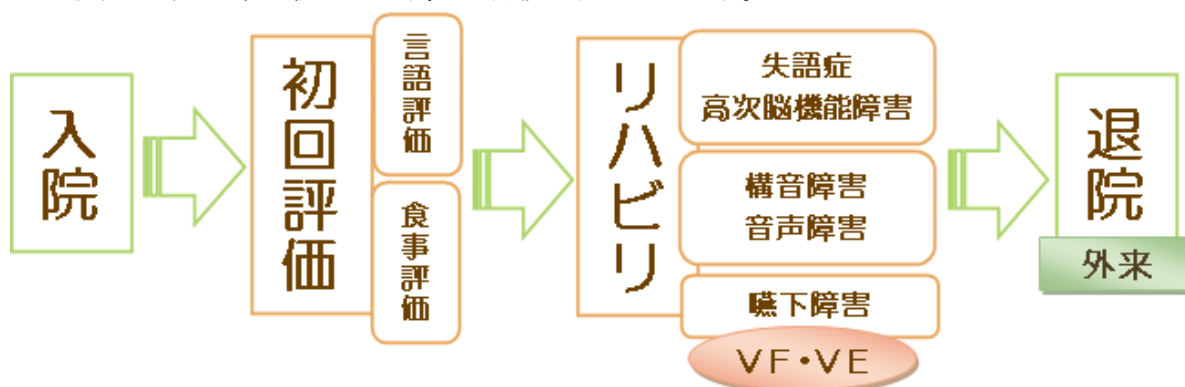
年齢



障害割合

## S Tの仕事

失語症や構音障害、音声障害、嚥下障害、高次脳機能障害の方のリハビリを担当しています。当院では、ご入院された患者様に対して、入院時から食事の評価を行っています。

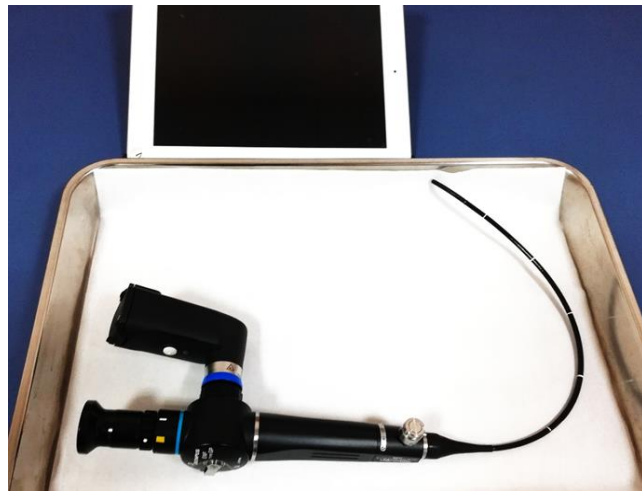


## 摂食機能療法

週に一度、NST／摂食・嚥下ミーティングを行っています。栄養や摂食・嚥下に問題のある患者様について、各病棟で、看護師・栄養士・言語聴覚士とで、現状や今後の方針を話し合います。



嚥下造影検査 (VF)



嚥下内視鏡検査 (VE)



NST／摂食・嚥下ミーティング



吸引研修

## NST稼働施設認定病院

当院は日本静脈経腸栄養学会のNST稼働施設認定を受けています。

NSTとは、栄養サポートチームのことで、STをはじめ多職種の

専門スタッフたちが低栄養などの患者様を支援しています。



## 言語評価・高次脳機能評価

SLTA、SLTA-ST、SALA、失語症構文検査、抽象語理解力検査、重度失語症検査、AMSD、CAT、BADs、標準高次視知覚検査（VPTA）、標準高次動作性検査（SPTA）、RCPM、BENTON、WAIS-III（WAIS-IVに移行予定）、S-PA、WMS-R、リバーミード行動記憶検査など、失語症から高次脳機能障害（記憶・遂行・注意・失行・失認）、構音障害まで、症状の精査が行えるよう、様々な検査用具を揃えています。



検査の練習①



検査の練習②

## 言語訓練

エスコアールカード、Actカード、失語症ドリル集、スピーチリハビリテーション、構音ドリルブック、タブレット（iPad）など主要な教材のほか、当院で作成した教材を揃えています。



訓練の様子①



訓練の様子①

## 嚥下訓練機器の紹介

### ●バイタルスティムPLUS／ジェントルスティム／イトーPOSTIM

摂食嚥下機能の改善を目的とした機器です。低周波を利用し、摂食嚥下関連筋を電気刺激することで筋を収縮させます。

### ●バルーンカテーテル（食道拡張用）

食道入口部の開大が不十分な患者様に対し、食道入口部を機械的に拡張する。



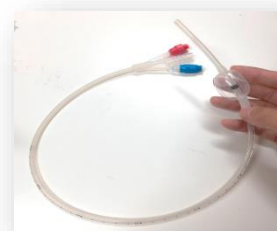
バイタルスティム



ジェントルスティム



イトーpostim



バルーンカテーテル

## ST勉強会

月に2～3回程、知識向上のため、症例発表や伝達講習、抄読会等を行っています。通常の勉強会だけでなく、同年代だけの勉強会も定期的を実施し、お互いに切磋琢磨しています。



勉強会の様子①



勉強会の様子②

※2022年度 「ディサースリア認定セラピスト」取得

# 新人教育

## ●教育体制

新人セラピストに対して、バイザー（2～3年目）、アドバイザー（4～5年目）、リーダー（6年目～）がついて指導を行います。複数人がつくことによって、困ったことがあったらすぐに質問し、その場で解決できる環境になっています。また、2担当制も採用しています。

検査の方法や訓練プログラムの立案、カンファレンス用紙の書き方など、バイザー、アドバイザーらが指導し、一緒に考えていきます。



## ●新人研修プログラム

1年目のスタッフを対象に基本的な技術を習得するため、先輩セラピストによる講習会を半年間に渡って行っています。

### 2024年度新人教育プログラム

- リスク管理
- 寝返り・起き上がり
- シーティング
- 構音障害
- 半側空間無視
- 家屋改修
- トランスファー
- 座位
- 摂食・嚥下障害
- 注意障害
- 遂行機能障害
- 画像診断
- ADL評価（FIM）
- ポジショニング
- 失語症
- 記憶障害
- 自助具
- 通所リハビリ



オリエンテーション



座位

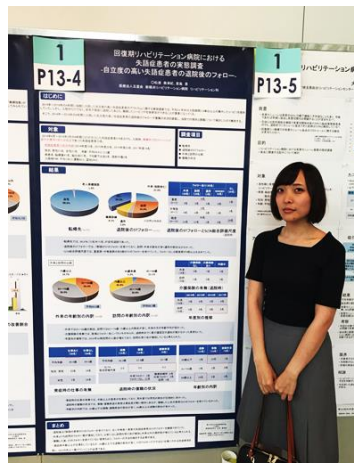


## 学会発表

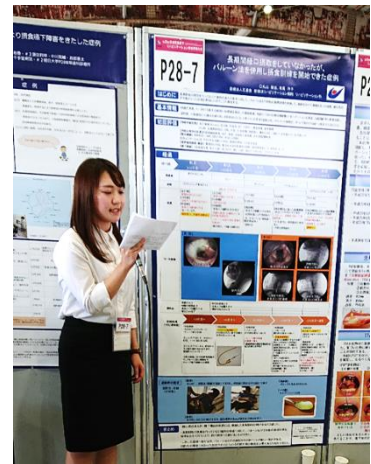
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2010



日本言語聴覚学会 2019



日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2019



### 【実績（2021年以降）】

2021年 第22回日本言語聴覚学会

「テレビ電話やLINEを使用し家族指導を行った失語症患者の一例」

「当院における失語症患者の外来リハビリテーションの現状と課題」

2023年 第24回日本言語聴覚学会

「嚥下障害を呈した廃用症候群患者の食事摂取状況・経口摂取移行に関する実態調査」

## 他グループ施設との交流

週に1回程度、研修や指導をかねて当院から他グループ施設（大倉山記念病院、レストア横浜、レストア川崎）を訪問しています。レストア横浜、レストア川崎では、評価や訓練を2名体制で行っています。



大倉山記念病院



レストア川崎

## その他



リハビリ庭園①



リハビリ庭園②



病棟廊下



病棟個室



病棟食堂



病院受付